

福島、  
その先の  
環境へ。

対話フォーラム

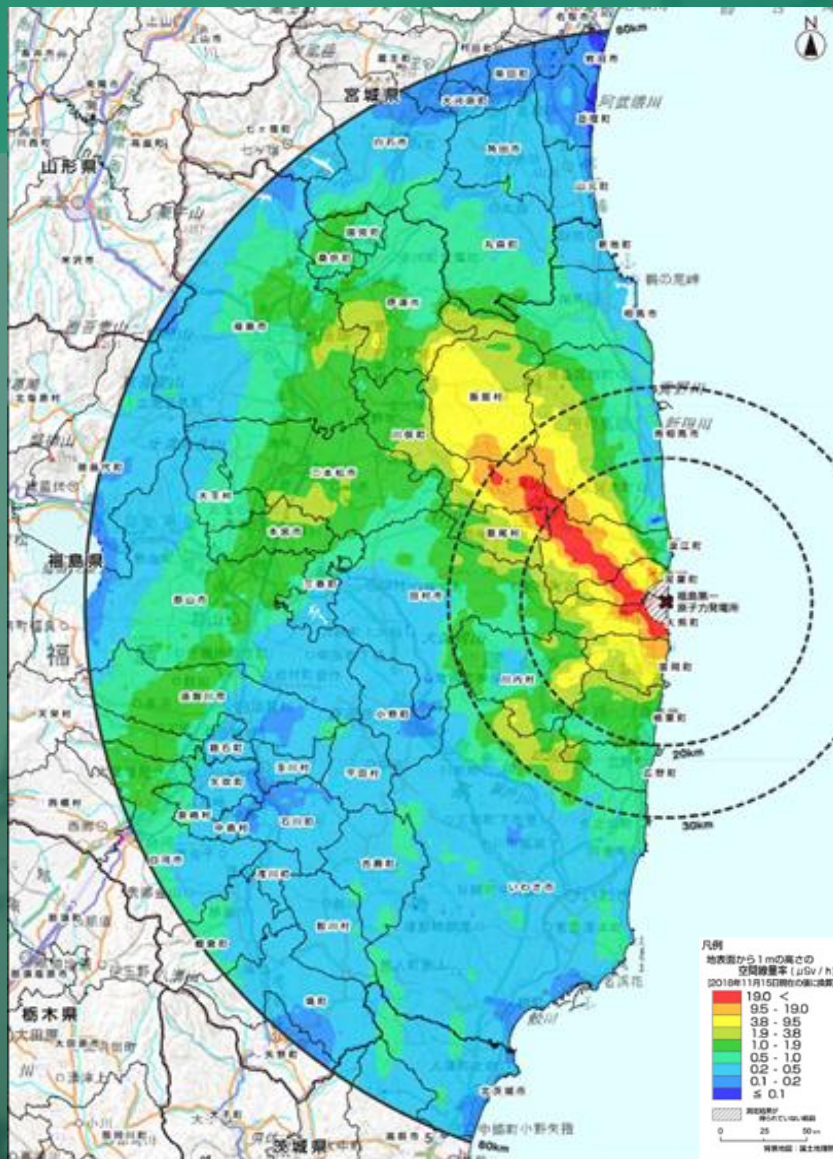
# 福島県での環境再生事業と今後の課題

環境省 環境再生・資源循環局

2021年5月23日

東京電力福島第一原子力発電所の事故により

放射性物質による環境の汚染が発生



80km圏内における空間線量率の分布マップ (文部科学省発表 2011.12.16)



避難指示区域の概念図 (区域見直し後)





放射線量を下げるため

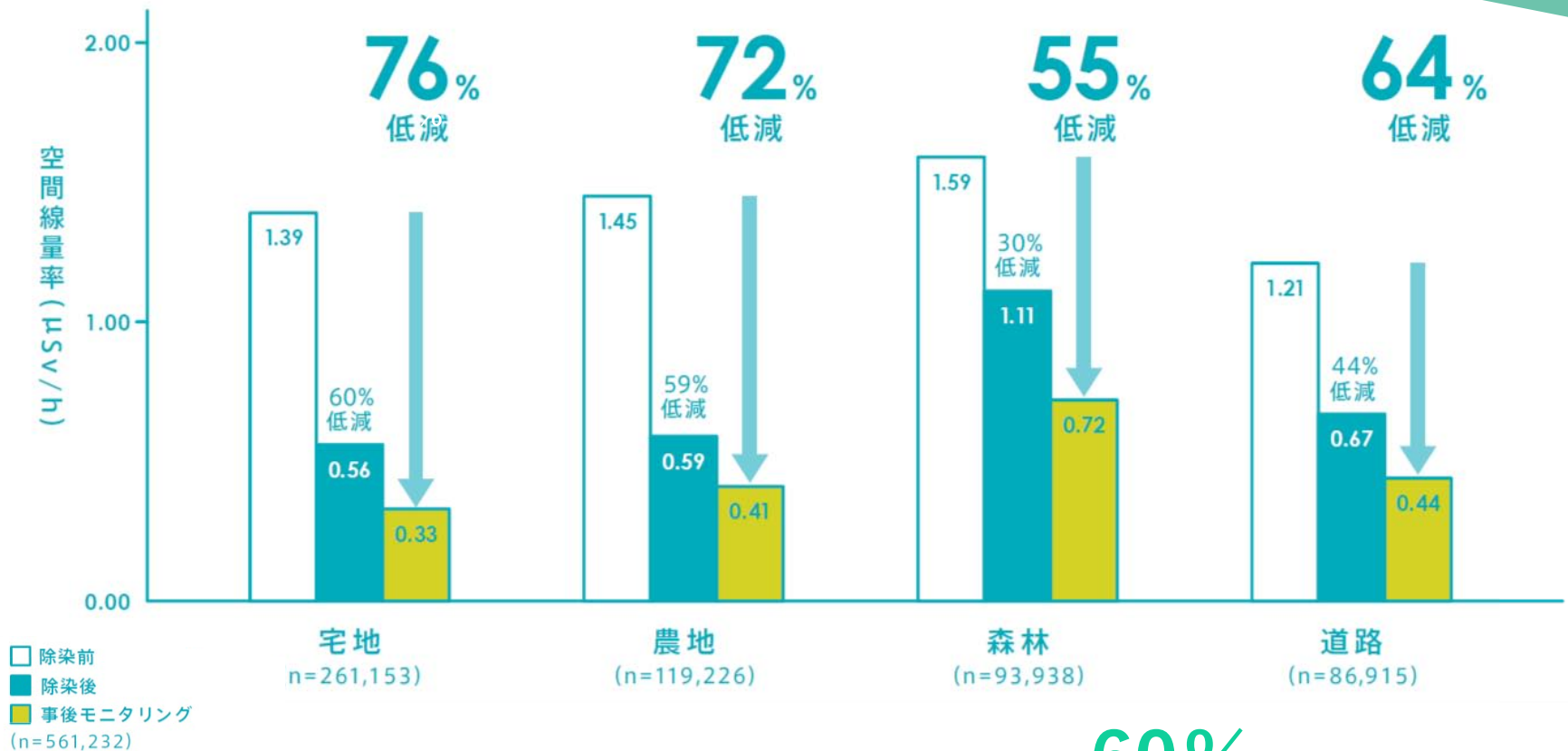
除染

を実施。





# 除染の効果

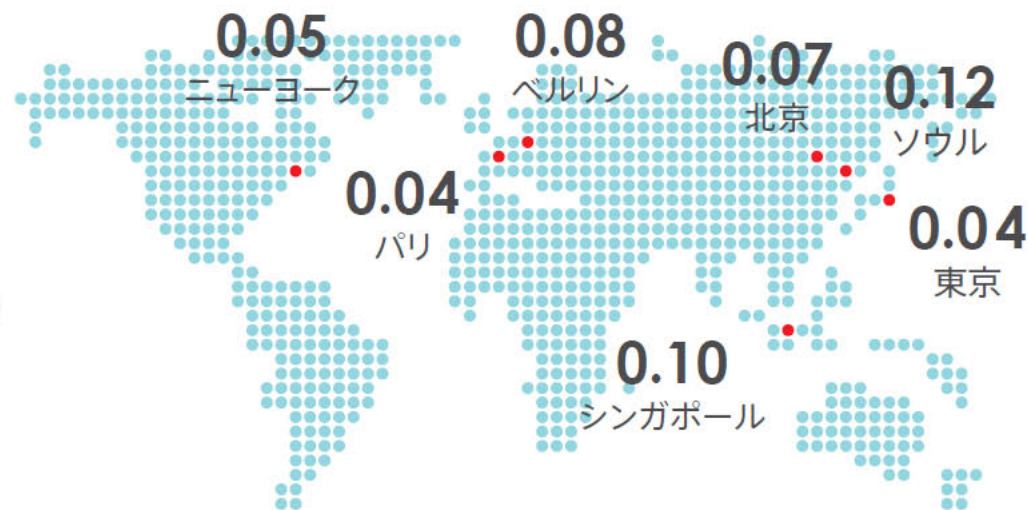
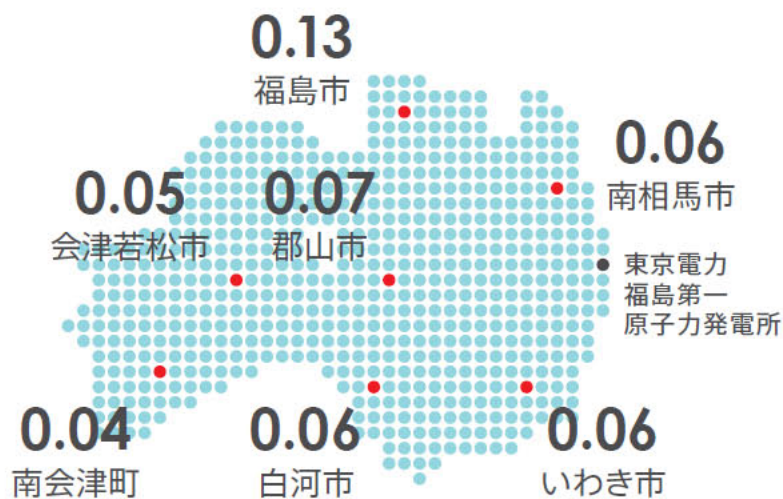


例えば宅地では、除染によって空間線量率が**60%**低減し、

その後のモニタリング調査では**76%**まで低減。

**面的な除染の効果**が維持されていることが確認されている。

# 福島県の空間線量率は 世界の主要都市と同レベルに



【単位： $\mu\text{Sv/h}$ 】

出典：福島県「復興・再生のあゆみ第3版」、日本政府観光局 パリは2018年10月、ニューヨークは2019年1月、ベルリン、シンガポール、北京及びソウルは2019年9月、東京都、福島県内各所は2020年7月時点の数値

福島県の空間線量率は、年々減少しており

**現在では海外主要都市とほぼ同水準**になっている。





除染の結果、**大量の除去土壌等**が発生。  
県内の復興を進めるため、これらは**中間貯蔵施設**へ。





## 中間貯蔵施設

**中間貯蔵施設**は **大熊町 双葉町**に立地。

受け入れの際、地元の皆様に大変重いご決断をいただいた。

大熊町・双葉町の  
町長のビデオメッセージをご覧ください





# 県外最終処分

法律で定められた国の責務

©福島民報社提供

**「除去土壌等を 30 年以内に福島県外で最終処分すること」**  
福島の深刻な環境被害と、それによる住民の方々の重すぎる負担を考慮したもの。

# 除去土壌の再生利用の必要性

中間貯蔵施設へ運び込まれる除去土壌等の量は

## 東京ドーム約11杯分

### 中間貯蔵施設



約1,400万 $m^3$   
≒東京ドーム11杯  
※帰還困難区域のものを除く

再生利用可能濃度の土壌

### 再生資材化

異物除去  
濃度分別  
品質調整

### 再生利用

公共工事等で管理  
した上での再生利用

覆土材

再生資材

可能な限り減容・再生利用

中間貯蔵開始後30年以内  
の県外最終処分の完了

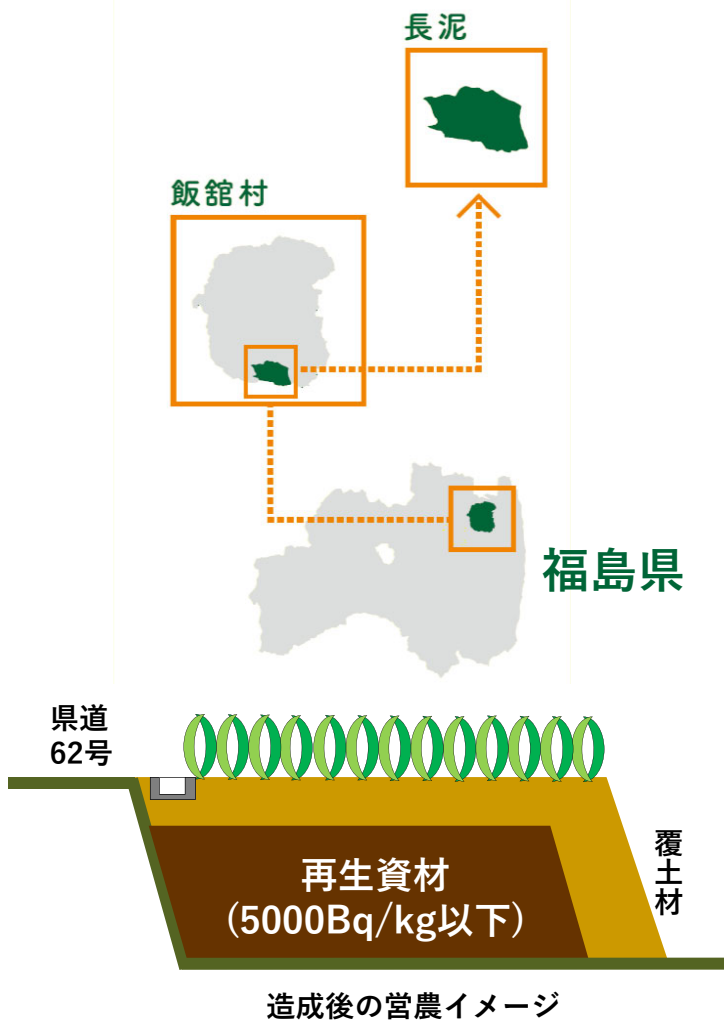
県外最終処分に向け

最終処分量を低減するための再生利用が鍵



# 飯舘村長泥地区での再生利用実証事業

安全性の確保を前提として、再生資材として利用するための実証事業



一昨年度は **花や資源作物** 昨年度は **食用作物** を住民のご協力のもと栽培。

**飯舘村長泥地区環境再生事業  
紹介動画をご覧ください**



# 実証事業での栽培実験の結果

- ・ ミニトマト : 0.2Bq/kg
- ・ カブ : 2.3Bq/kg (葉)、1.1Bq/kg (根部)
- ・ キュウリ : 0.1Bq/kg
- ・ トウモロコシ : 0.2Bq/kg
- ・ ダイコン : 1.0Bq/kg (葉)、0.2Bq/kg (根部)
- ・ レタス : 0.4Bq/kg
- ・ ホウレンソウ : 0.4Bq/kg
- ・ コマツナ : 0.4Bq/kg
- ・ インゲン : 0.3Bq/kg (覆土あり)、0.4Bq/kg (覆土無し)
- ・ キャベツ : 0.8Bq/kg (覆土あり)、1.6Bq/kg (覆土無し)

厚生労働省が定める一般食品の放射能濃度の基準値である

**1キログラム当たり100ベクレルよりも十分低い値**であった  
(0.1~2.3Bq/kg)



# 福島県内除去土壌の**環境省本省室内での利用**

(昨年3月より継続して設置)



鉢植えの設置前後で大臣室内の鉢植え周辺の**空間線量率は変化なし**。  
(空間線量率：0.06  $\mu$  Sv/h)



一人でも多くの方に  
この問題を知っていただき  
共に考えていただきたい